

大きくなって戻って来いよ

新ひだか町牧野静内団地への入牧が行われる

5月17日、新ひだか町牧野静内団地への入牧作業が、静内酪農振興会(会長 小池孝義 会員20名) 会員をはじめ、各関係機関協力のもと行われました。この日は、春らしい穏やかな天気にも恵まれた入牧日和で、会員7名の計93頭が、採血于エック、妊娠鑑定、体重測定を経て、それぞれの牧区への入牧を済ませました。

例年、放牧されている牛の中に発熱、貧血、発育停滞を引き起こす小型ヒロプラズマ病にかかる牛がいることから、今年も、共立製薬(株)先端技術開発センターとの共同で、小型ヒロプラズマ病ワクチンの実証研究に取り組むこととなっています。

この結果については、毎月行っている衛生検査、そして、退牧時にそれぞれ確認することとなっています。

放牧した牛たちが、病気や怪我なく秋も深まった頃に一回りも二回りも大きくなって戻ってくることを期待しています。



それぞれ牧区に移動中です。
隊列を乱さず、行儀良く行進中です。



入牧後に行われた牛魂祭の様子です。

本格的な営農時期を迎えました！

農業に興味が沸いたかな？

食育出前授業を行う

J Aしずない青年部(部長 落合信幸 部員30名)では、5月30日に山手小学校、31日に高静小学校、6月16日に桜丘小学校でそれぞれ食育出前授業を行いました。

同青年部では、平成25年から町内の小学校を対象に特産品であるミニトマトを使用した食育出前授業を行ってきたっており、今年で4年目を迎えます。今回は、各小学校とも1回目の授業ということで、苗の定植から支柱を立てるところまでを行い、子どもたちは、部員の説明に熱心に聞き入りながら、楽しそうに作業していました。

部長の落合信幸さんは「この出前授業を通じて、子どもたちが農業や食に対して少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。」と話していました。



苗の定植作業の様子です。
青年部員の皆さんも熱心指導しています。

今後は、7月の夏休み前までに各小学校で、芽かきや芯止めについての授業が予定されています。

